

令和8年度 第1回学校運営協議会 議事録

1 日時

令和8年6月23日（火） 14:00～15:30

2 場所

岩手県立大船渡高等学校 大会議室

3 出席者

(1) 学校運営協議会委員（11名）

P T A会長	高	武	暎	
P T A副会長	今	野	美	香
いわてNP0-NETサポート 事務局長	菊	池	広	人 <欠席>
大船渡市立第一中学校 校長	村	上	貴	彦
大船渡市社会福祉協議会 生活福祉課長	山	崎	高	範
大船渡市企画政策部企画調整課 課長補佐	佐	藤	大	基
北里大学海洋生命科学部 助手	清	水	恵	子
大船渡商工会議所 事務局次長	佐々木			晋
株式会社キャッセン大船渡 取締役	千	葉	隆	治 <欠席>
橋爪商事株式会社 代表取締役社長	橋	爪	博	志 <欠席>
大船渡市議会 議員	佐	藤	優	子 <欠席>
土地家屋調査士事務所 所長	金		哲	朗
定時制教育振興会 会長	葛	西	祥	也
定時制 支援協力者	今	野	洋	二
岩手県立大船渡高等学校 校長	石	井	美樹子	

(2) 事務局（5名）

事務局長（全日制副校長）	平	田	勝	彦
事務局長（定時制副校長）	佐々木			均
事務局次長（事務長）	横	沢	知	幸
事務局員（全日制総務主任）	田	村	宏	光
事務局員（定時制総務主任）	佐	藤	一	枝

(3) オブザーバー（5名）

全日制教務主任	鈴	木	紗	季
全日制生徒指導主事	大	関	直	美
全日制進路指導主事	沼	崎	昌	也
全日制保健主事	伊	勢	美	和
全日制デジタル探究課主任	細	川	純	平

4 次第 ※司会：事務長

(1) 開会のことば（全日制副校長）

(2) 委嘱状交付（校長）

(3) 校長挨拶

全日制では、高総体県大会で陸上競技部、空手道部等が上位大会への出場を決め、硬式野球部が公立校で唯一のベスト4、ソフトボール部が第3位となった。定時制でも、バドミントン部女子個人がベスト4に入り、全国大会の県代表に選出されている。

また、全日制においては、生徒が次世代リーダー育成などの国際交流事業に参加するほか、定時制の地域活性化事業として近隣施設へのプランター寄贈等に参加している。令和9年度から新制服

及び全日制の単位制を導入する予定である。

今後も、学校・保護者・地域が協働し、生徒の成長を支える学校づくりを推進したい。

(4) 自己紹介

(5) 協議

ア 会長及び副会長選出（全日制副校長）

事務局から、会長に大船渡商工会議所の 佐々木 晋 委員、副会長に定時制支援協力者の 今野 洋二 委員を選出する案が示され、全会一致で承認される。佐々木会長から就任の挨拶と活発な意見交換への期待が述べられ、以後の議事進行は佐々木会長が務める。

イ 令和8年度学校経営計画（校長）

ウ 令和8年度スクール・ポリシー（校長）

【全日制の学校経営計画等】

今年度は「シンカ」をキーワードとし、1年生は「進化」、2年生は「内容を深める深化」、3年生は「真価を問う真価」という成長段階を設定する。校訓「自獨独立」の下、進学インターンシップ等の地域循環型教育と「大船渡学」を通じ、課題発見力や実行力等のアントレプレナーシップを育成する。

グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力）では、「人間力」と「グローバル人材」を掲げ、探究的な学びを基盤に、課題発見・解決力、コミュニケーション能力及びアントレプレナーシップを育成する。

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施）では、主体的、探究的、協働的な学びを推進し、ICTを活用した対話力及び表現力の育成を目指す。

アドミッション・ポリシー（入学者の受け入れ）では、従来の「自己実現」「向上心」「探究心」に加え、自ら考えて行動する「自律（自走する生徒）」を新たな項目として加える。

また、今年度は次の6項目を重点目標として掲げ、教育活動を進めていく。

- 1 主体的な学びの定着と ICT の有効活用について、高等学校 DX 加速化推進事業（DX ハイスクール）の取組として、大学でのプログラミング講座等を実施し、授業満足度95%以上を目指す。
- 2 「文武一道」の考え方にに基づき、充実した高校生活を体験できたとする生徒の割合95%以上を目指す。
- 3 確かなキャリア教育を構築し、進路達成率100%を維持するとともに、「大船渡学」の内容をブラッシュアップし、探究活動をさらに進化させる。
- 4 いじめ防止について、認知したいじめの解消割合100%を目標とし、「報連相シート」による情報共有や、こまめな面談を通じて早期発見・早期対応を徹底する。
- 5 「大船渡学」等におけるフィールドワークを通じて地域との連携を進め、豊かな人間力を育成する。
- 6 不適切な指導を根絶し、生徒を一人の個人として尊重するとともに、安心して学校生活を送ることができる生徒の割合100%を目指す。

併せて、働き方改革として、教職員の業務量管理及び健康確保措置を進め、持続可能な学校運営体制を構築する。

【定時制の学校経営計画等】

定時制は、不登校経験等の多様な背景を持つ生徒の学びの場となっていることから、一人ひとりに寄り添ったきめ細かな指導を行うとともに、必要に応じて医療・福祉等の関係機関と連携して支援することを基本姿勢としている。

グラデュエーション・ポリシーでは、「総合生活力」「人生設計力」「人材育成」を重視し、多様な経験を通じて自立して生きる力や将来を考える力を育成する。

カリキュラム・ポリシーでは、学び直しを含む基礎・基本を大切にし、生徒の学習状況やペースに応じて、3年又は4年での卒業を目指す柔軟な教育課程を編成する。

アドミッション・ポリシーでは、多様性を尊重し、学ぶ意欲を持ち、規範意識と健康を大切にしながら、自己実現を図ろうとする生徒を受け入れる。

今年度は、ICT を活用した「分かる授業」により授業理解度95%以上を目指し、個別の進路支援とキャリア教育を充実させること、挨拶や礼儀等を高めて総合生活力を育成することを重点目標とする。また、週1回の情報共有と面談により、いじめ及び不適切な指導の早期発見・対応に努める。現在、いじめの認知件数は0件である。

【質疑応答と意見交換】

〔山崎 委員〕

目標を「いじめ解消 100 %」、または「認知したいじめ件数が0件」を付け加えてはどうか。

→〔校長〕

発生0件は理想であるが、数値を強調すると情報が表面化しにくくなるおそれがある。現在は「いじめのおそれ」の段階も積極的に認知し、早期対応・解決を目指すため、発生0件という数値目標は設定していない。

〔村上 委員〕

主体的な学びやICT活用に向けた学校共通の研究テーマはあるか。また、家庭学習の定着に向けて、どのような取組を行っているか。

→〔校長〕

学校共通の特定研究テーマは設定していないが、配慮を要する生徒への対応等について全体研修を実施している。また、午後7時頃まで学校に残り、友人と教え合いながら自習室等で学ぶ生徒が増えている。

→〔全日制教務主任〕

生徒は学校や図書館等の環境と時間を有効に活用して学習している。ICT 端末を用いた復習や小テストのフィードバックを通じ、自ら弱点を把握して克服する学習サイクルの形成を図っている。

〔高 委員〕

保護者の立場からも、自宅より図書館や学校等の環境を利用して学習している生徒の様子が見受けられる。1年生の段階から早めに進路意識を持たせることが必要であると感じる。

〔金 委員〕

人権の尊重と不適切な指導の根絶に関して、教職員を対象とする具体的な研修は行われているか。

→〔校長〕

体罰防止やコンプライアンス遵守に関する全体研修に人権の内容を盛り込んでいるほか、定例職員会議において毎月注意喚起を行っている。

〔佐藤 委員〕

市役所の立場からも、地元だけでなく首都圏等の多様な大学生との交流やフィールドワークの機会を増やし、地域の高校生に幅広い情報を届けていきたい。

〔清水 委員〕

北里大学としても、地方と都市部の学生が交流できる機会を創出するとともに、海洋生命科学部に限らず、医学部や未来工学分野のビッグデータ等、多様な分野との連携を深めていきたい。

〔今野美 委員〕

県推奨のタブレット端末が学校のネットワークにつながりにくいとの声があるが、現状はどうか。

→〔全日制デジタル探究課主任〕

端末の種類による接続状況の差はないが、学校全体の回線容量に課題があった。今年度はモバイル Wi-Fi を導入し、動画視聴時等に回線を分散させることにより、利用環境は改善している。

→〔校長〕

回線の抜本的な強化については、DX 推進委員の訪問時等の機会も捉え、県に対して継続的に要望している。

〔今野洋 委員〕

多様な学力層の生徒が入学する中、タブレット端末を活用した個別最適な学習が有効ではないか。
また、単位制を導入する具体的なメリットは何か。

→【校長】

現行の学年制による一斉授業では多様な生徒への対応に限界があるため、令和9年度から単位制を導入する。難関大学向けの高度な教育課程や、習熟度・進路目標に応じた探究クラス、総合文理クラス等の柔軟な編成により、一人ひとりの能力を伸ばす。中学校での説明会等を通じて周知していく。

【葛西 委員】

学校周辺の市街地でも熊が目撃されているため、生徒の登下校時の安全確保に向け、学校から注意喚起をお願いしたい。

→【校長】

出没状況を共有し、引き続き生徒への注意喚起を行う。

以上の説明及び質疑応答を踏まえ、全日制及び定時制の令和8年度学校経営計画並びにスクール・ポリシー原案は承認された。

エ その他

特になし

(6) 報告

ア 令和8年度学校概況

【全日制】（副校長）

- ・生徒数は減少傾向にあり、定員充足率は76.9%となっている。
- ・通学手段は自家用車による送迎が約半数を占めている。
- ・国公立四年制大学への進学率は昨年度32.4%であり、低下傾向にある。
- ・部活動の未加入率は12.7%となり、昨年度の約2倍に増加している。
- ・「大船渡学」では、1年次「Core 探究」、2年次「Edge 探究」、3年次「ゼミ探究」の段階的な教育課程を実施している。
- ・DX ハイスクールの取組として、大会議室を ICT 専用の「Digital Lab」として整備する予定である。

【定時制】（副校長）

- ・在籍生徒は18名である。働きながら学ぶ生徒は減少し、少人数での学び直しを求める生徒が中心となっている。
- ・進路の多様化に対応し、一人ひとりの状況や希望に応じた指導を行うとともに、防災教育、キャリア教育及び食生活と健康等の健康教育に重点的に取り組んでいる。

イ 制服検討委員会（全日制生徒指導主事）

令和9年度入学生から新制服を導入する。暑さへの対応、動きやすさ、家庭での洗濯等の機能性を重視し、品格のあるグレーのジャケットを採用した理由について説明し、その魅力を紹介するPR動画を上映する。

ウ その他

「大船渡学夏の陣」（全日制デジタル探究課主任）

7月21日（火）から23日（木）まで、生徒が探究活動の成果を発表する「大船渡学夏の陣」を開催する。委員には見学の上、生徒への助言をお願いしたい旨の案内をする。

(7) その他

特になし

(8) 閉会のことば（定時制副校長）